

東京都新宿区北新宿1-8-16  
東京土建一般労働組合  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
発行人・編集人  
三木 勉

印刷部数11万3500部  
(購読料は組合費のなかに含まれています)  
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円

# けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

### 安倍9条改憲 NO!統一署名

安倍改憲に反対し、憲法を生かす3000万人署名です。憲法改悪反対の世論を大きくし、憲法改正議論を断念させましょう。署名推進の100人チャレンジャーの登録を進めます。ご協力ください。

## 組合とともに交渉し解決

### 東京土建に相談してよかった



事業所で聞き取りをする大鐘賃対部長 (右)

## 賃確法適用で立替払い

### 未払分約200万円受けとる

今年4月、勤務先が破産し、賃金が未払いになった多摩・稲城支部所属のアンカー工事のIさん(42歳)とHさん(40歳)が、組合に相談した結果、「賃金の支払いの確保に関する法律」(賃確法)の適用を受け、立替払いによる救済措置がとられるようになりました。その顛末(てんまつ)について2人にお聞きしました。

Iさんが東京土建に加入したのは12年前でした。今回破産した会社に入り一人親方労働者の加入が必要になったことでした。組合のことは建設職人の先輩から聞き、知っていました。

Hさんは4年前にこの会社に入りました。2年経って会社の方から手間賃になるから一人親方労働者加入してほしいと言われ、神奈川県に住んでいましたが、東京土建の加入を選びました。

会社が破産手続きを開始したのは4月17日。Iさんはその直前まで会社の仕事をしていました。Hさんは少し前から仕事を辞めようかと考えていたところ、すでに退社していた会社の番頭さんから「やばい、潰れるよ」と言われ、

番頭さんについて、別の会社に替わっていました。賃金は毎月15日に振り込まれますが、4月15日は土曜日であったため、未払いが分かったのは17日の月曜日でした。その時、IさんもHさんも、会社や社員に電話で事情を聞こうとしたが、はっきりせず、破産だとわかったのは取引先の業者が、社長から「倒産したので倉庫に行っで、材料を手付けたら犯罪ですよ」というメールが来ています。それから、2人は東京土建であれば、こうした問題を聞いてくれるのではないかと思い、支部に相談しました。支部は本部賃対部や全建総連、東京都連賃対部と相談して、2人と一緒に管財人と交渉し、労働者性を証明する作業員名簿の取得や番頭さんの証言などを集め、賃確法の適用の要請をすることができました。



賃確法適用を喜びあう、手前右からIさん、Hさん、奥右から鈴木多摩・稲城支部副主任書記、佐藤本部書記、長谷部東京都連書記次長

## 対話で要求くみ取る 渋谷が野丁場事業所訪問

秋の拡大第3次統一行動初日の9月20日、渋谷支部では野丁場事業所訪問行動を行いました。この訪問の目的は、10月の大手企業交渉や9月23日の渋谷支部の野丁場群意見交換会を前に、現場対策ニュース(本部)・しぶやEXチェンジニュース(支部)・アンケートなどを、仲間に顔の見える行動を行なうことです。

この日は15人の参加者を4つのグループに分け、各分会の野丁場群に所属する事業所を訪問しました。

訪問のポイントは①アンケート回収(目標40件)、②聞き取り(法定福利費・賃金)、③労働協約(法定福利費を適正に支払う確認書)、④野丁場群意見交換会への参加のお誘いです。

大鐘弘資支部賃金対策部長は、「法定福利費や36協定などいろいろなところになってきて、事業主の方が大変になって。今、事業所は何を必要としているのかを対話して知ることが大事」と訴えます。

この日は30件の事業所を訪問し、加入対象者を16件掘り起こすことができました。



競技中の氏平達也さん (撮影は中野支部・古川正則さん)

## 全国大会で金賞に カレッジ11期生の氏平さん

【建築カレッジ・吉川新吾 記】全国建設労働組合総連合は、35歳以下の建築職人が技能を競う全国青年技能競技大会を毎年開催しています。第33回大会が9月19〜21日、名古屋国際会議場で開かれ、東京建築カレッジ第11期生で現在、指導員の氏平(うじひら)達也さん(江戸川支部)が金

賞を受賞しました。氏平さんは同大会で過去に4回、銀賞を受賞するなど全国トップクラスの選手です。ついに全国1位を達成し、カレッジを全国にアピールしました。

この大会は「四方転び踏み台」を共通課題とし、日本が世界に誇る大工技術の次世代への継承を目的に行なわれています。今回、全国の予選を勝ち抜いた80人(36県連)が出場しました。本校からは、氏平さんのほかに、第13期生の柴田輝実さん(村山大和支部)、第10期生の千葉幸大さん(小金井国分寺支部)が出場し揃って入賞しました。この大会には千葉県連から第13期生の中島裕章さん(千葉土建)も参加し健闘しました。

## 朝やけ

■米国ワシントンDCにあるホロコースト博物館に「ファシズムの初期兆候」と題された展示パネルがある。14の兆候として、強力且つ継続的なナショナリズム/人権の軽視/団結の目的のために敵国を設定/軍事の優先/性差別の横行/マスメディアのコントロール/国家の治安に対する異常な執着/宗教と政治の癒着/企業保護/労働者の抑圧/学問と芸術の軽視/犯罪の厳罰化への執着/身びいきの横行と汚職/不正選挙、をあげている。

■森友学園問題が明るみに出たから、これまで安倍政権がやってきたこととの類似が指摘されている。「兆候」だが、これは現時点でも同様だ。最近北朝鮮のミサイル発射を取り上げ、ことさら危機感をあおっている。北朝鮮の火星12型ミサイルは、高度約400kmを飛ぶ国際宇宙ステーションより上空の高度770kmの宇宙空間を飛んでいる。これに対して「アラートで国民に注意を呼び掛ける」ということだから、どのような意味があるのか考える必要がある。

■安倍政権は内閣改造後、支持率がアップしているという。この機に乗じての解散総選挙なのだろう。北朝鮮問題を追い風にしようとしているのは間違いない。総選挙の狙いがどこにあるのか、国民はもっと目を光らせるべきだろう。